

毒塗に安住と云ふしあ祖別と云

○源氏繪合

御法
若菜上
花の宴
雲隠
夏のはげ
花散置
堂
為雲

御
桐御
政而
水戸茶中納言
屋敷中納言
堀田侍中
侍中附品光
服部中納言

空蟬
明石
治平
繪合
須磨
揚巻
まじり柱
白くま

弓部右衛門
大奥女中
久世大和守
和七丹後守
石河土佐守
太田侍後守
内倉紀伊守
相平右衛門

さう心持ふそらりお徳事あはれと申す川地
出帝の御人かゝりぬとそ〜世界は〜和書つむ

花人の呼ぶと冠角夕顔

○左ん女白の夜大の夢見浅草花川戸のあめく
大奥のときとて古今稀成次牙別是る世世し
の帯と我市申よりこぬ在共奥の向成者おどと
・問人アレハ世とてありとてを奥今もあついで
たしせとてハ余り大そのの一人とてあついで也
料理人ト頭ヲ派うりて今世とていひのむむ也

○安政五年

口上

陽界中極益不極極。以計り得る法以先山を由極
存り極と私足極とてと以得為毎日極。極は仕極
汁死合と極死の怒り極は私と極極極極極極極極極
道下極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極
葉子極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極
卒極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極
利不の極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極

- 一 脚 志ぬ出條 三十一 毒室死文 一 脚 あんぐら條 十三 甲府上いぐら條
- 一 卷 極條伊極條 一 上定極極

一秘 親玉小形し 乃浩五九を 一 大 死さい條 各款のあんなため

一 親し ちんした條 家元あり切字 三 ありせん

一 三 かみ子條 五りが尾條 三 三十一

ちんか田宅ト 忠右とらど 忠右めし 忠平志が死致士
葉子馬ん御次身

戊八年 毒月六日

ありあけを加かん

本師岩川五佐 水戸屋丹後

○ 毒月六年八月半流りこた

ねもあし 志やうこがあし
ゆめりり 志やうこがあし
まねどもを侍まておかあし
使せりるり 志やうこがあし
せりの 評判 志やうこがあし
ちいやはちアふやうかあし
そくせちしとあざたあし
まていし 志やうこがあし
あし 志やうこがあし
あし 志やうこがあし